




病害虫発生予察情報予報第 7 号


佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	10月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫(抜粋)
		平年比	前年比		
水稻(普通期)	トビイロウンカ	やや少	少	152~154	
大豆	ハスモンヨトウ	多	多	196~197 202~204	 ハスモンヨトウ
	カメムシ類	やや多	やや多	197~198 204~205	
<p>1. ハスモンヨトウ 平成 30 年 9 月 26 日付け病害虫対策資料第 7 号参照。</p> <p>2. カメムシ類 莢の伸長初期~子実肥大中期に防除を実施する。なお、圃場でカメムシ類が散見される場合には、7~10 日間隔で 2~3 回防除を行う。</p> <p>3. 紫斑病 莢の伸長初期~子実肥大中期に防除を実施する。</p>					

作物名	病害虫名 ^{注1)}	10月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫(抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ(本圃)	ハダニ類	並	並	208~209	 イチゴハダニ類
	うどんこ病	並	やや多	198~200	
	アブラムシ類	多	多	213~214	
<p>1. 炭疽病 一部に汚斑型病斑が多発生した圃場がみられる。発病株は伝染源となるため早期に除去する。</p> <p>2. 次年度親株の病害虫対策 次年度作での炭疽病、萎黄病等の発生を抑えるため、健全親株を確保する。特に、育苗期に発生が認められた圃場では優良原種苗等へ更新する。また、これらの親株についても秋季から炭疽病、うどんこ病及びハダニ類の防除を徹底する。</p>					
キュウリ	べと病	やや少	並	178~179	 キュウリ黄化えそ病
	うどんこ病	やや多	やや多	176~178	
	褐斑病	並	並	181~182	
	アザミウマ類	多	多	190~191	
	コナジラミ類	やや多	多	189~190	
<p>1. ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ、黄化えそ病、退緑黄化病 既に黄化えそ病が発生している圃場がある。罹病株を認めた場合は、早急に処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。未発生の圃場においても、媒介虫の侵入防止対策を徹底するとともに、定期的に薬剤防除を実施する。</p>					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	10月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
	アザミウマ類	やや多	多	160~165 247~248	
	コナジラミ類	並	並	157~159 248~249	
ナス	1. アザミウマ類・コナジラミ類 タバコカスミカメを導入した圃場においても、本虫が多発生した場合には、薬剤防除を実施する。 2. クロテンコナカイガラムシ 一部圃場で発生が認められる。成幼虫とこれらが分泌する甘露およびそれによるすす病を目安に、早期発見に努める（下記写真参照）。見つけた場合は寄生部位ごと取り除き、施設外の土中に埋めるなど適切に処分する。<平成25年12月24日付特殊報第2号参照>				
					
アスパラガス	ハダニ類	並	やや少	318~319	
	アザミウマ類	やや多	並	317~318	
	褐斑病	多	やや少	314~315	
	茎枯病	やや少	少	313	
	斑点病	やや少	並	314	
	1. ハダニ類 虫見板への払落しを行い、寄生が認められれば直ちに薬剤防除を行う。また、噴口を茎葉内に差し込む等して茎葉全体にかかるようにする。				
タマネギ	1. ベと病 感染を防ぐため育苗期から薬剤防除を行う（平成30年8月30日付け病虫害対策資料第5号）。				
野菜・花き共通	チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、オオタバコガ)	多	やや多	162, 164 仔ゴ : 211~213 ナス : 246~247 アスパラガス : 316~317, 320 キ : 394~395	
	1. チョウ目害虫 平成30年9月26日付け病虫害対策資料第7号参照。				

作物名	病虫害名 ^{注1)}	10月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
果樹全般	果樹カメムシ類	多	並	240~243	 チャバネアオカメムシ
	<p>1. 果樹カメムシ類 予察灯での誘殺数は設置した地点間で差が大きく、発生量が多いところもある。発生量や飛来時期は地域によって異なるため、各園地の飛来状況の把握に努め、飛来が認められた場合には、直ちに防除を実施する。</p> <p>2. 夜蛾類 夜温が高いと夜蛾類の活動が活発になるため、果実の被害に注意する。園地周辺のカミエビ、アケビ、ムベ等は夜蛾類幼虫の食草となるので除去する。また、忌避灯を設置している園では、点灯時間は日の出・日没の時刻に合わせて調整する。</p>				
カンキツ	ミカンハダニ	並	やや多	234~238	
	チャノキイロアザミウマ	並	やや多	230~234	
<p>1. 果実腐敗対策 日焼け果や裂果は果実腐敗の原因となるので収穫時に取り除き処分する。また、降雨時・結露時の収穫は避けるとともに、果実に傷をつけないよう丁寧に扱う。腐敗防止対策のための薬剤散布は収穫7~10日前に霧状になるノズルを使ってムラがないように散布する。</p> <p>2. かいよう病 台風の襲来等強風雨が予想される場合は、襲来7日前~前日までに必ず薬剤散布を行う。</p> <p>3. ミカンサビダニ 園内及び周辺の園で新たな被害を認めた場合は、早急に薬剤を散布する。特に、前年に被害が多発した園や放任園等に隣接する園では防除を徹底する。</p>					
ナシ	1. 黒星病	翌年の伝染源を減らすため、収穫終了後も防除を徹底する。落葉した葉は本病の伝染源となるので、埋却もしくは園外に持ち出し処分する。			
ブドウ	1. べと病・褐斑病	一部の園で発生が多い。本病による早期落葉の防止及び園内の菌密度低下のため、収穫終了後も防除を徹底する。落葉した葉は本病の伝染源となるので、埋却もしくは園外に持ち出し処分する。			
フルーツ	1. かいよう病	収穫後頃から本病菌の増殖に好適な気温となる。感染を防止するため、発病の有無にかかわらず、収穫終了直後から、銅水和剤を定期的に散布する。			

作物名	病虫害名 ^{注1)}	10月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キク	白さび病	並	並	386~387	 クロゲハナアザミウマ
	アザミウマ類	多	多	391~392	
	アブラムシ類	多	多	393~394	
	ハダニ類	やや多	多	392~393	
	ハモグリバエ類	並	並	395~396	
	チョウ目害虫	多	多	394~395 162~164	

	<p>1. アザミウマ類 多くの圃場で発生が認められる。本虫は、施設外から侵入し、施設内で増殖するため、施設内及びその周辺の雑草を除草するとともに、発生状況を随時確認し、低密度時からの防除を実施する。</p> <p>2. チョウ目害虫 平成30年9月26日付病害虫対策資料第7号を参照。</p> <p>3. カスミカメ類 一部圃場で食害が認められる。周辺雑草が増殖源になるので除草を行う。また、施設開口部に、防虫ネット等の被覆資材を設置する（防除のてびき P396 参照）。</p>
--	--

注1) 病害虫名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

○平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

○農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

○各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「[県防除のてびき](#)」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

○1～4ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
5ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

10月の気象条件

○病害虫の発生に関与する10月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報（平成30年9月25日）を基に、「[気温：平年よりやや高い](#)」、「[降水量：平年並](#)」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3ヶ月予報における10月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	40 (18.6℃)	40	やや高い
降水量	30	30 (76 mm)	40	並

Ⅲ. 10月の予報

水稻（普通期）

定期調査：39 圃場
調査日：9月20日～25日



定期調査圃場の様子（普通期水稻）

1. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率 0.1%（平年15.7%、前年40.8%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：少（-）
(2) 10月の気象予報
気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 中晩生品種（さがびより、ヒヨクモチ等）については、圃場での発生状況を随時確認し、幼虫を多数認めた場合には薬剤防除を実施する。

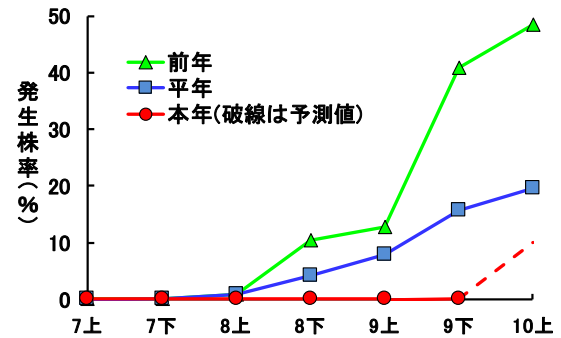


図1 普通期水稻でのトビイロウンカの発生推移

大豆

定期調査：22 圃場
調査日：9月20～25日



定期調査圃場の様子

1. ハスモンヨトウ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率 10.1%（平年5.1%、前年2.0%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）
白変葉発生株率 1.4%（平年1.7%、前年0.7%）
平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

② トラップ調査（図2参照）【県内9地点】

平年比：やや多（±～+）

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 病虫害対策資料第7号参照。

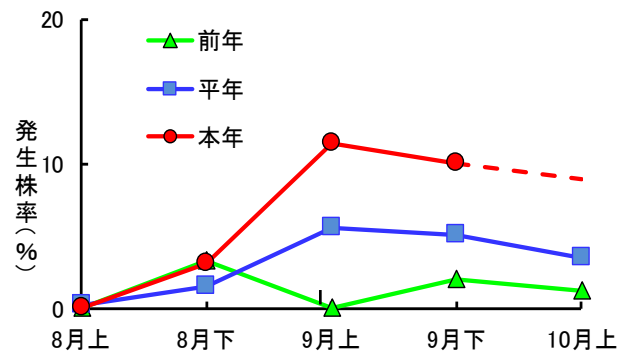


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移

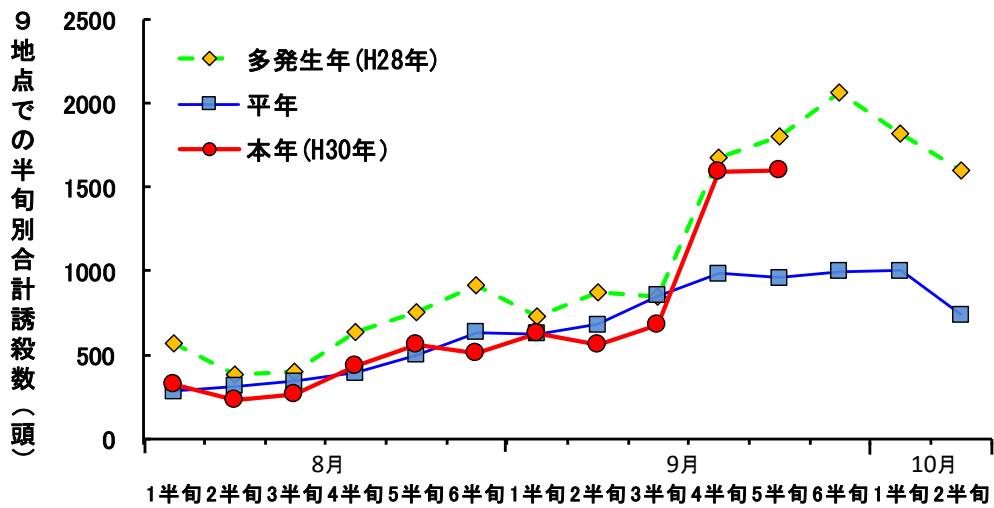


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数 (10月2半旬まで)
(農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。)

2. カメムシ類 (アオカメムシ, 仔モンジカメムシ, ホバカメムシ, ミミアカメムシ等)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率 0.2% (平年 0.3%、前年 0.2%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除にあたっては、薬剤が莢によくかかるように散布する。

(2) その他については、特記事項を参

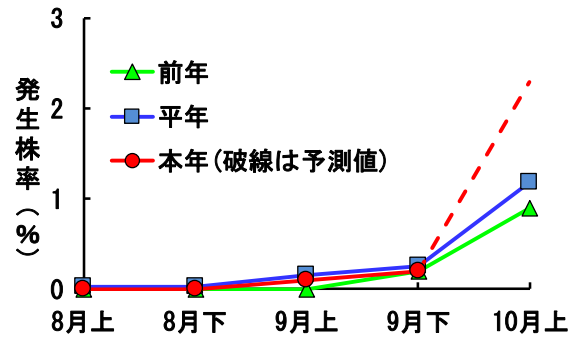


図1 大豆でのカメムシ類の発生推移

イチゴ (本圃)

(定期調査 11 圃場、防除員 6 圃場)

調査日: 9月20~25日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率: 3.3% (平年 6.4%、前年 2.9%)

平年比: やや少 (−~±) 前年比: 並 (±)

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

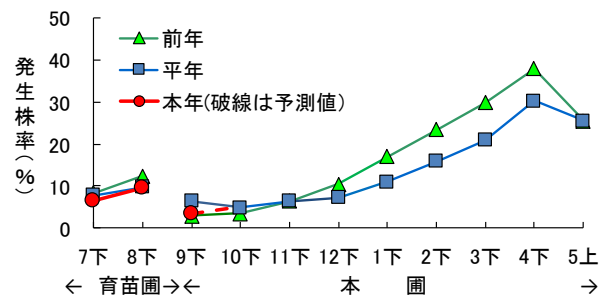


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：1.9%（平年2.7%、前年0%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

(2) 10月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果実での発生を防ぐため、頂果房開花前までの防除を徹底する。

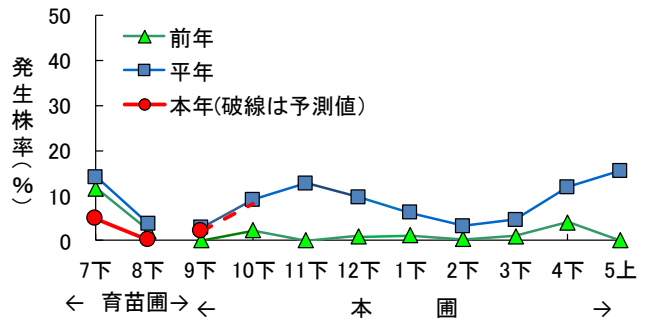


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：8.9%（平年2.1%、前年2.9%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果梗での発生を防ぐため、頂果房開花前までの防除を徹底する。

(2) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

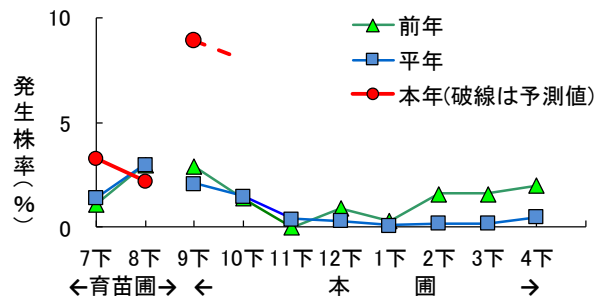


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ（抑制）

（定期調査8圃場）

調査日：9月21日～25日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：1.9%（平年8.0%、前年16.7%）

平年比：少<-> 前年比：少<->

(2) 10月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 適正な湿度管理に努める。

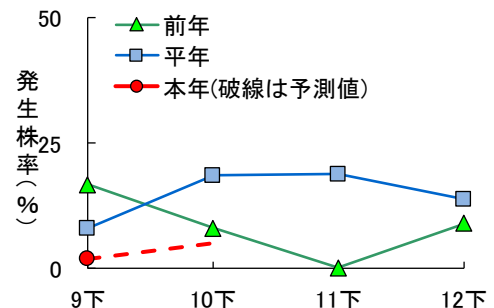


図1 キュウリべと病の発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 13.8% (平年 7.3%、前年 10.0%)

平年比: やや多 (±~+) 前年比: 並 (±)

(2) 10月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 硫黄粒剤や硫黄水和剤等の耐性菌が出にくい剤を組み入れて薬剤防除を行う。

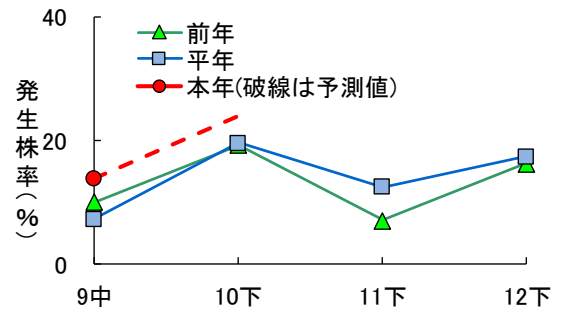


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 3.8% (平年 2.3%、前年 1.5%)

平年比: やや多 (±) 前年比: やや多 (±)

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

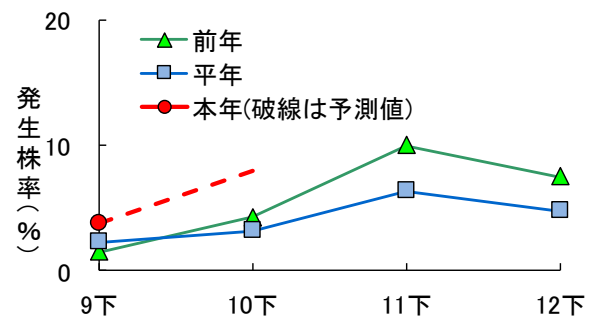


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 5.0% (平年 6.5%、前年 3.3%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

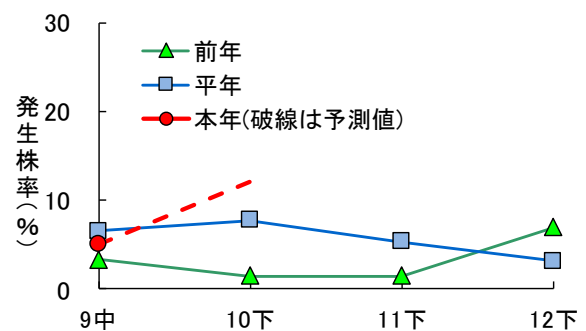


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

ナス (促成)

定期調査: 7 圃場
調査日: 9月21日



定期調査圃場の様子

1. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率: 9.2% (平年 10.2%、前年 6.4%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設開口部を防虫ネットで被覆し、ハウスへの侵入を防止する。
- (2) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) その他については特記事項を参照。

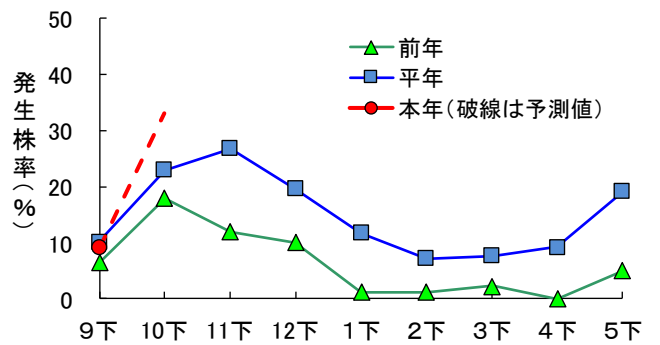


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率: 40.0% (平年 58.3%、前年 44.2%)

平年比: やや少 (-~±) 前年比: 並 (±)

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) アザミウマ類の項と同じ。

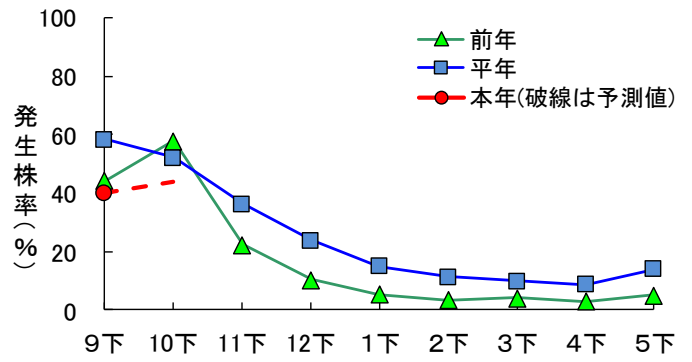


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

アスパラガス

定期調査: 8圃場

調査日: 9月20日~25日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率: 1.3% (平年 6.1%、前年 9.4%)

平年比: やや少 (-~±) 前年比: 少 (-)

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (+~±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

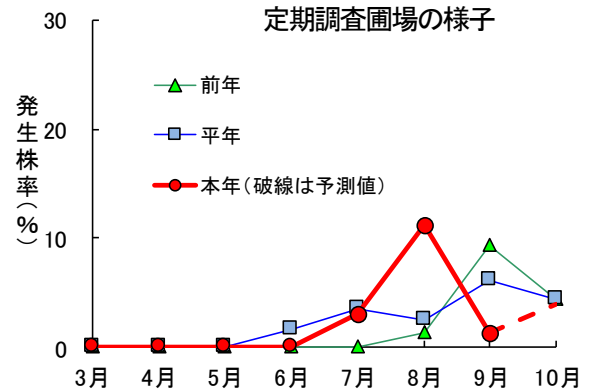


図1 アスパラガスでのハダニ類の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

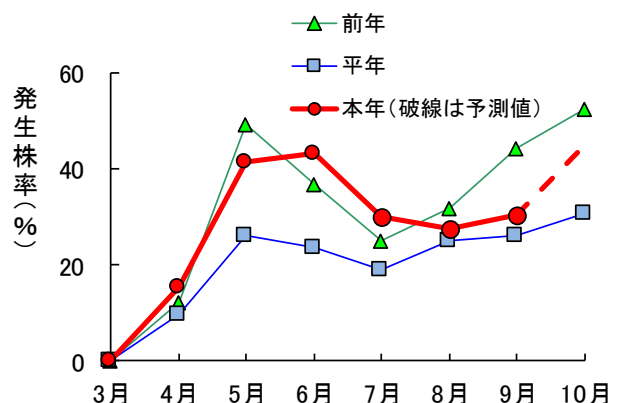


図1 アスパラガスでのアザミウマ類の発生推移

発生株率：30.6%（平年 26.2%、前年 44.4%）

平年比：並（±） 前年比：やや少（-～±）

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（+～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 若茎及び親茎への本虫による被害を防ぐため、虫見板（約20×30cm）への払い落とし（擬葉部を2～3回叩く）により調査し、成虫が1ヶ所当たり3頭以上認められる場合は薬剤防除を行う。

(2) 多発生圃場では、約7日間隔で2～3回薬剤防除を行う。

3. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：40.6%（平年 33.6%、前年 52.5%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：やや少（-～±）

(2) 10月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件（±）

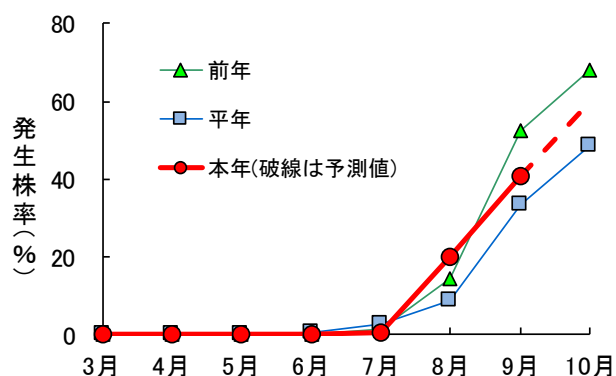


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 降雨時以外は施設開口部を開放し通風を図るとともに、健全な茎葉を確保するために薬剤防除を実施する。

野菜・花き共通

1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、材バコガ）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1～4参照）

作物名	食害株率 (%)	平年比	前年比	平年値 (%)	前年値 (%)
イチゴ	3.3	多（+）	多（+）	0.9	1.1
ナス	2.7	やや多（±～+）	やや多（±～+）	1.2	0
アスパラガス	0	並（±）	並（±）	0.3	0
キク	2.0	やや多（±～+）	並（±）	0.9	2.3

② フェロモントラップによるハスモンヨトウ及びオオタバコガの9月の誘殺数は、平年並～平年より多く推移している（図5～6）。（±～+）

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) [平成30年9月26日付け病害虫対策資料第7号参照](#)

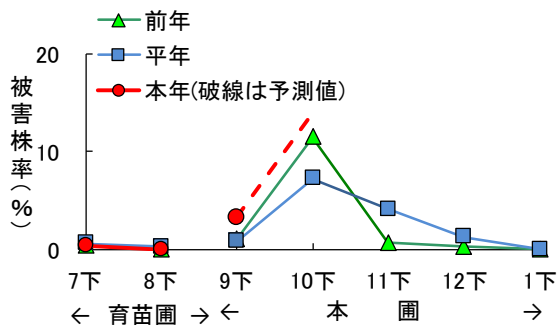


図1 チョウ目害虫によるイチゴの被害株率の推移

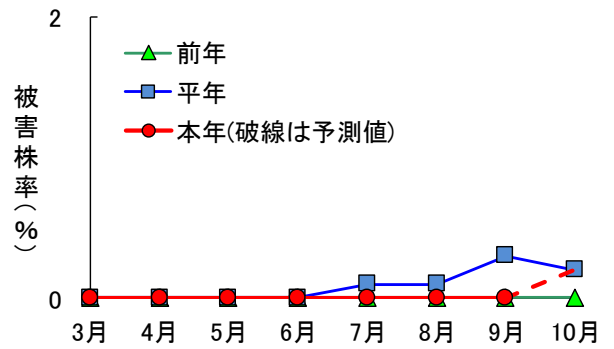


図2 チョウ目害虫のアスパラガスでの被害株率

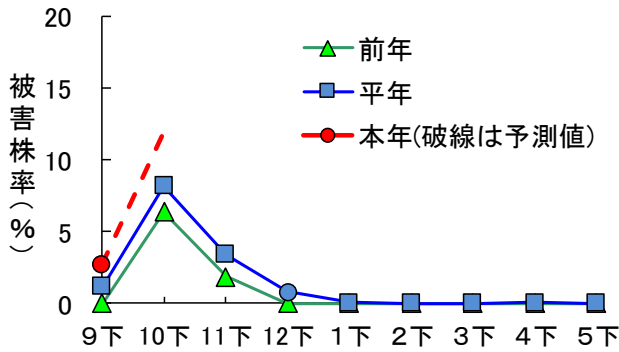


図3 チョウ目害虫によるナシの被害株率の推移

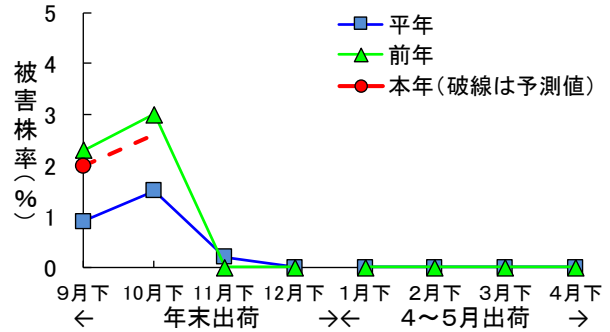


図4 チョウ目害虫のキクでの被害株率の推移

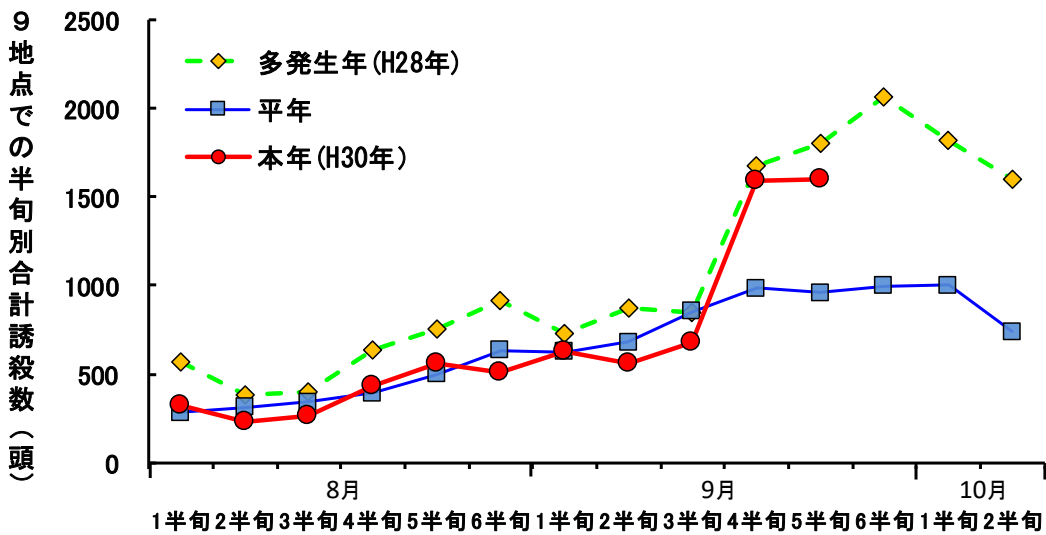


図5 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数（10月2半旬まで）
（農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。）

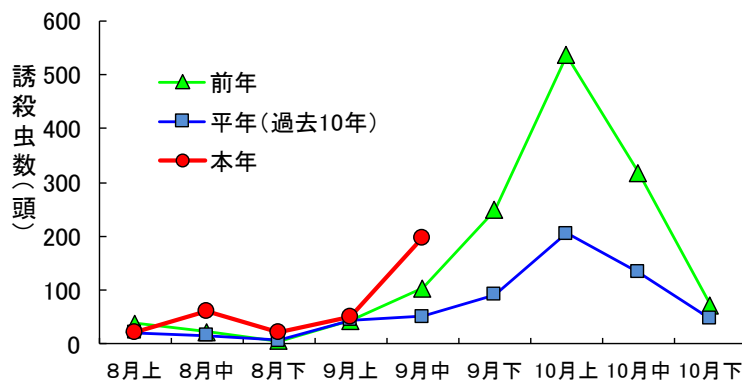


図6 フェロモントラップによるオオタバコガの半旬別誘殺数
（病害虫防除員による川副町2地点での平均誘殺数）

果樹全般

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 予察灯（図1参照）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

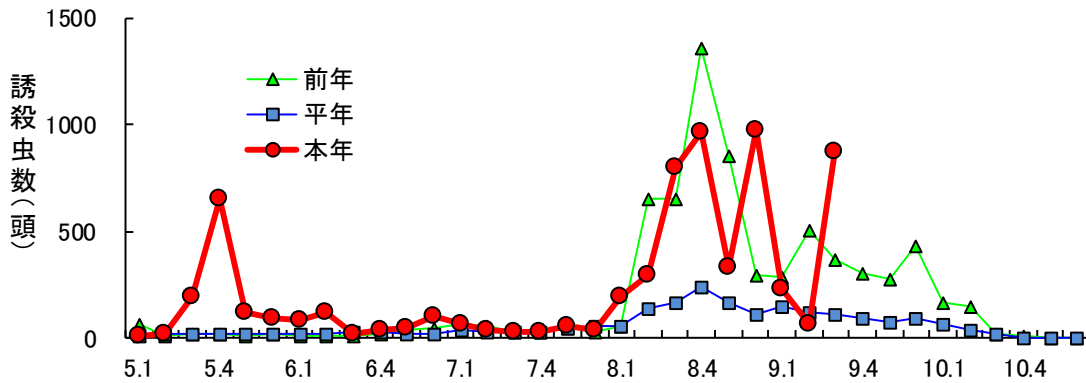


図1 予察灯（佐賀市、小城市、太良町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

(2) 10月の気象予報

気温が平年よりやや高く、降水量は平年並でやや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫の飛来を認めたら、早急に合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤による防除を実施する。なお、これら薬剤の残効期間は10～15日程度であるが、ネオニコチノイド系薬剤は、積算降雨量が50mmに達した時点を目安に再散布を行う。
- (2) 合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤を散布するとハダニ類やカイガラムシ類が異常増殖（リサージェンス）する場合がありますので注意する。
- (3) その他については、特記事項を参照する。



定期調査圃場の様子

カンキツ

定期調査（8圃場）

調査日：9月19日～21日

1. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉率：0.1%（平年1.8%、前年0%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 10月の気象予報

気温が平年よりやや高く、降水量が平年並でやや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

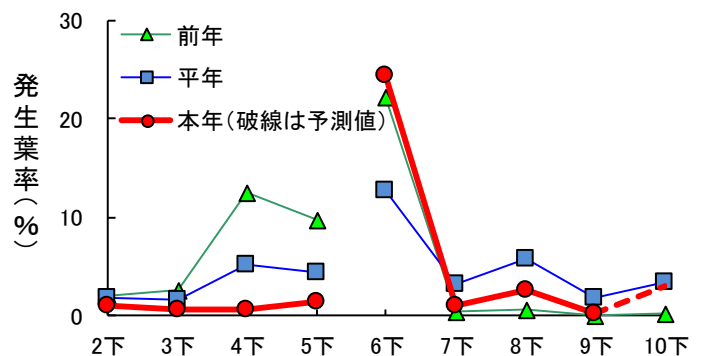


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移

（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

- (1) 低密度時（寄生葉率 30%未満または1葉当たりの雌成虫の数が0.5~1頭）からの防除を徹底する。
- (2) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。



定期調査圃場の様子

キク

定期調査（8圃場）
調査日：9月19~21日

1. アザミウマ類（クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 10.8%（平年 5.5%、前年 7.3%）

平年比：やや多（±~+） 前年比：やや多（±~+）

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±~+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) クロゲハナアザミウマは葉裏に寄生していることが多いため、葉裏にも薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) ミカンキイロアザミウマについては、キクえそ病（TSWV）・茎えそ病（GSNV）のウイルスを媒介するため、発病株は早急に取り除き、防除を実施する。
- (3) その他については、特記事項を参照する。

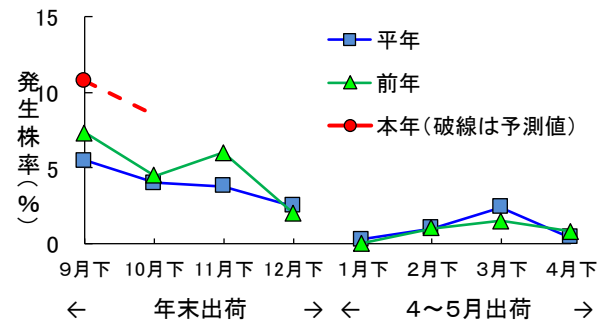


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

2. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 1.0%（平年 0.2%、前年 0%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±~+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 雑草が増殖源になるので、圃場周辺の除草を徹底する。

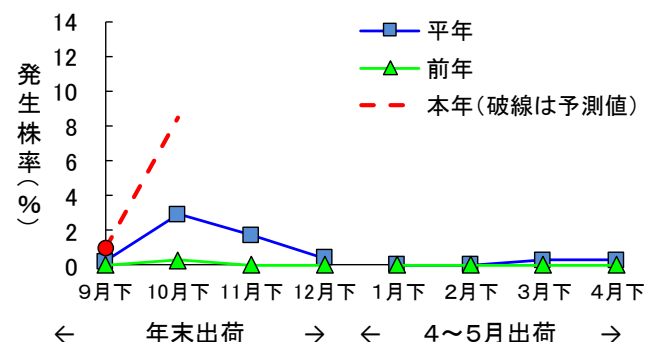


図1 アブラムシ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率 4.0%（平年 3.3%、前年 0%）

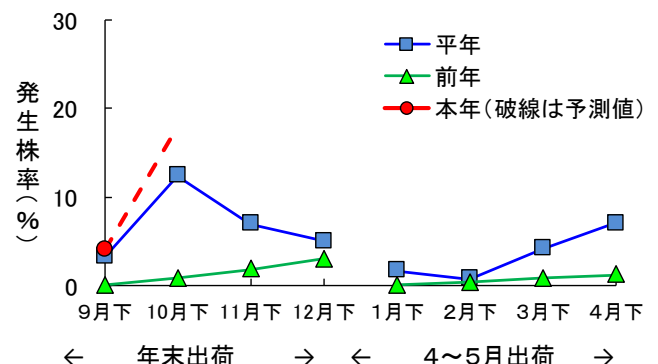


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

平年比：並〈±〉 前年比：やや多〈±～+〉

(2) 10月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

4. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ）

野菜・花き共通の項（P11～12）を参照。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5042 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp
--